

2 社会の要請に応える体験活動等事業

イ 青少年を対象に体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業

令和6年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業 「いさはやマルチスポーツ体験キャンプ2024」

〔主 催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期 日〕 令和6年11月23日（土・祝）～11月24日（日） 1泊2日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参 加 者〕 小学3年生～6年生（3年生30名、4年生28名、5・6年生30名）
児童88名（男子57名、女子31名）

〔担当職員〕 中里 文彦、東 宏子

〔外部講師等〕 長崎県フェンシング協会14名（指導者9名、高校生スタッフ5名）
長崎県アーチェリー協会25名（指導者4名、高校生スタッフ21名）
長崎ヴェルカユースチームコーチ6名（指導者6名）

1) 事業の趣旨

複数のスポーツを体験することにより、子どもたちが興味をもてるスポーツとの「出会い」を創出し、バランスのよい身体づくりや動きを実感する機会を提供する。

2) SDGs で目指す姿

		目標4 質の高い教育をみんなに 仲間と協力する活動を通して、安心・安全な学習環境作りの指導方法を学ぶ。 目標16 平和と公正をすべての人に 仲間と協力する活動を通して、参加型の意思決定を支援する指導方法を学ぶ。
---	---	--

3) 目標

①みんなでスポーツとの出会いを楽しもう！

②さ・い・ふ・あっ・た：参加する・一生懸命・フェア（公平、公正）・安心、安全・楽しむ

4) 研修プログラム

1 日目(11月23日)		2 日目(11月24日)	
9:30	受付	6:30	起床
10:00	開講式、オリエンテーション①	7:15	朝のつどい
10:30	I-CAP ～仲間づくりの活動～【写真1】	7:30	朝食(レストラン)
12:00	昼食(レストラン)		～宿泊荷物整理、清掃～
13:00	スポーツ体験①(2.5h)【写真2.3.4】	9:30	スポーツ体験②(2.5h)
16:00	オリエンテーション②	12:00	昼食(レストラン)
17:00	夕べのつどい	13:00	スポーツ体験③(2.5h)
17:20	夕食(レストラン)	16:00	閉講式
18:40	ストレッチ、上手な体の動かし方など 【写真5】	16:15	ふり返り【写真6】
20:00	入浴	16:30	解散
21:30	就寝		

5) 事業展開

写真1「I-CAP」



3つのグループ(3年生、4年生、5・6年生)に分かれ、仲間づくりの活動やチームビルディングに取り組み、初めてあった人とも仲良くなることができた。

写真2「フェンシング」



高校生スタッフや社会人指導者などの試合を実際に見たり、プラスチックの剣や防具を使って動作を真似たりして、楽しそうに取り組む姿が印象的だった。

写真3「アーチェリー」



初めは「怖い」「危ない」と感じる参加者もいたが、動作練習をして、約束事を守りながら取組むと、「できた!」「楽しい!」「もっとやりたい!」との声を多く聞くことができた。

写真4「バスケットボール」



コーチのお手本を見ながら、ドリブルやパス、シュートなどの練習を行ったり、英語を使いながらボールゲームに取り組んだりした。また、ミニゲームでは、お互い声をかけ合い楽しむことができた。

写真5「ストレッチ、上手な体の動かし方」



アーチェリーでは、「ボールを使った反射神経トレーニング」、バスケットボールでは、「チューブやボールを使ったストレッチ」、フェンシングでは、「ビジョントレーニング」などを行った。

写真6「記念撮影」



参加者や指導者、ボランティアスタッフ、運営スタッフみんな笑顔で記念撮影を行った。
(R6. 3オープンにつどいの広場にて)

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
90%	10%	0%	0%

② 参加者の声

- ・バスケットボールやフェンシング、アーチェリーが楽しかったので、もっとやってみたいと思った。
- ・これからたくさん友だちを作りたいと思った。
- ・もっといろいろなスポーツをできるようになろうと思った。
- ・得意なスポーツが増えたので、さらにスポーツが好きになった。
- ・普段でなかなかできないスポーツをできてうれしかった。ヴェルカのコーチに教えてもらってうれしかった。
- ・フェンシングやアーチェリーは、やったことがなかったけど、とても楽しかった。
- ・アーチェリーの道具を触ったり、体験したりして、すごく楽しかった。
- ・いろいろやっていくうちに仲よくなれて、友だちも増えてうれしかった。

7) 成果と課題

① 成果

- ・60名の募集定員に対して、328名の応募があった。スポーツ団体やボランティアスタッフの協力もあり、60名から90名へ定員を増員して実施することができた。
- ・スポーツ団体（バスケットボール、フェンシング、アーチェリー）との連携協力体制が構築でき、指導者やサポートスタッフが充実して、参加者が満足することができた。
- ・新しい友だちづくりや複数のスポーツ体験ができる場を提供することができた。
- ・バランスのとれた体づくりをするきっかけづくりができた。
- ・参加者や保護者アンケートでは、満足度が高く、「次も参加したい」「次も参加させたい」という意見が多かった。

② 課題

- ・定員を90名に増員したが、直前1か月以内の家庭の都合でのキャンセルが多かった。その都度参加者を補充しながら88名（2名体調不良）を確保できたが、調整連絡に時間がかかったので、次年度は、スケジュールやキャンセル規定などを確認して申込みのように案内していきたい。
- ・1班30名の3班（3年生、4年生、5・6年生）で実施したが、会場が手狭だったので、25名程度の実施が効果的と思われる。
- ・参加者の満足度をより高めるため、各スポーツ団体との綿密な事前準備や相互意見交換、子どもたちへのオリエンテーション（体験キャンプ中の約束事、施設利用の仕方、自己管理の仕方など）の充実などのプログラムの改善が必要である。次年度の参加者には、諫早青少年自然の家の「オリエンテーション動画」を事前視聴して参加してもらうようにする。